

## 未来の部活動について話し合う

### 南関中学校 部活の在り方を考える

9月20日、南関中学校(平井一郎校長)で「中学校の部活動地域移行に係るワークショップ」を開催しました。久留米大学人間健康学部の行實鉄平准教授がコーディネートし、生徒会役員や部活動部長、各クラスの代表者等24人が参加。未来の魅力ある部活動を実現するために語り合い、意見を出しました。町では「部活動の地域移行」に向けた事業を令和3年度から実施。これまでは大人中心で議論を進めてきましたが、今回初めてワークショップを開催し、生徒からもさまざまな意見が聞けました。発表では「2つの部活動に所属し、曜日や季節によって、色々な部活動を楽しみたい」、「eスポーツやスケートボードなど、新しい種目を取り入れたい」などの意見が出ました。



▲行實准教授の話聞きながら部活動について真剣に考える生徒



▲(株)塩山食品で南関あげができるまでの工程を勉強する生徒

## 地域の魅力を発見

### 南関中1年生 町内フィールドワーク

9月20日、南関中学校(平井一郎校長)の1年生60人が、4つの小学校区に分かれて町内の事業所や町の史跡などを回りました。総合的な学習の時間で、町の自然や文化、歴史に触れながら、南関町の良さを自ら発見することを目的に実施。チェックポイントで事業所の人や伝承人から話を聞き、疑問なことは質問しながら、地域について学びを深めました。生徒は「江戸時代から400年以上続く焼き物や江戸時代の絵馬が残る神社、日本の産業を支える半導体製造工場など驚くものばかりで、今まで知らなかった南関町を知れて良かった。これらの歴史や技術を守り進化させながら、魅力ある南関町にしていきたい」と話しました。

## 最後まで攻めるテニスを貫く

### 南関第二小学校 小竹実空さん

10月10日、南関ジュニアソフトテニスクラブに所属する南関第二小学校6年生の小竹実空さんが佐藤町長を表敬訪問し、10月14～15日にかけて香川県で開催される「第17回西日本小学生ソフトテニス選手権大会」への出場を報告しました。小竹さんは8月に行われた「熊本県小学生ソフトテニス選手権大会」で準優勝し、西日本大会への出場権を獲得。西日本大会へ向け「持ち味の積極的に攻めるプレースタイルを最後まで続け、1勝でも多く勝てるように頑張ります」と意気込みを語りました。



▲小竹実空さん(左)、佐藤町長(右)

▼だしを試飲しました



▲片山さんの質問に元気づく手を挙げる園児

## 食の名人から郷土料理を学ぼう

### 郷土料理出前講座

10月4日、南関こどもの丘保育園(菅原裕園長)で「食の名人による郷土料理出前講座」が行われ、年長の41人が南関町生活研究グループの片山カツ子さんと南関町の食文化について考えました。「郷土料理」やふるさとの食文化を若い世代へと繋げることを目的に、今年度から県が実施する事業で、今回が県内初の取り組み。園児は、南関町の野菜やそれを活用した料理について問われると元気づく答え、郷土の食文化について楽しく学びました。

※食の名人…郷土の伝統料理などについて卓越した知識・経験・技術を有し、伝承活動等に取り組んでいる人。

## くまモンと一緒にオリジナルゲームを作ろう

### 二小 プログラミングワークショップ

9月21日～22日の2日間、町内4小学校でくまモンのゲームを作りながらプログラミングを学ぶ体験授業が行われました。これは熊本県と(株)QNetでつくる「くまモンGAMES委員会」が主催で、ゲーム制作を通じて子どもたちが楽しくプログラミングにふれることが目的。22日午後からは、南関第二小学校(古川浩美校長)の5、6年生が各自タブレット端末を用いて、画面の中のくまモンに思い通りの動きをさせたり声を吹き込んだり、世界に一つだけのオリジナルゲームを作り上げました。また、応援にくまモンやなんかんトッパ丸が駆け付け、子どもたちが作成したゲームと一緒に遊びました。



▲くまモンとトッパ丸にゲームを披露し、一緒に遊ぶ児童



▲花火になりきる児童

▼動きがモニターにアバターとして投影



## アバターで自分を自由に表現

### 一小 メタバースを活用した授業

9月12日～15日の4日間、南関第一小学校(唐津智彦校長)の3年生22人が、インターネット上の仮想空間「メタバース」を活用した表現運動の研究授業を体験しました。町教育委員会や熊本大学の研究者らで構成する「南関子ども体力向上推進コンソーシアム」が主催で、県内では初の取り組み。分身であるアバターを介して動きを表現することで、人前で恥ずかしさを感じてしまう子どもでも思いきって自由な表現ができます。授業では自分以外の人物がアバターとして映される「ヘッドマウントディスプレイ」ゴーグルを装着し、海の生き物やスポーツ、花火などを体全体を使って表現しました。

## 収穫の喜びを肌で感じる

### 四小 ナスの収穫体験

9月22日、南関第四小学校(浜崎泰史校長)の2年生11人が米田地区の畑でナスの収穫体験を行いました。子どもたちに地元野菜への関心を高めてもらえたらと、農事組合法人「よなだ」の協力で実施。児童は地域の人のアドバイスを聞きながら、器用にハサミを使い、一つひとつ丁寧にナスを収穫しました。箱いっぱい収穫したナスは全学年の児童に配られました。児童は「大きなナスをたくさんとることができて、うれしかったです。コンテナをのうかの人がみたくておもしろかったです」と笑顔で話しました。



▲立派なナスを収穫し笑顔の児童



▲コツをつかみ手際よく刈る児童

## 収穫の喜びをかみしめる

### 三小 稲刈り

10月12日、南関第三小学校(太田勝広校長)の5年生19人が同校近くの水田で稲刈りを体験しました。同校では、地域学習の一環として、農耕文化に親しみ、食べ物の大切さを学ぶことなどを目的に5年生が農業を学習。今年6月に自分たちで田植えし大きく実った稲を、地元農家の人に教わりながら、鎌を使い次々と刈り取っていきました。本田翼さんは「稲を刈るのは力があるので、手にまめができました」と笑顔で話しました。収穫したお米は、保護者や地域の方に販売したり、収穫祭でおにぎりを作り、お世話になった方へ食べてもらいます。